

キャットフードは多種多様です。中でもドライタイプは保存性に富み、栄養のバランスがとれた完全食です。便利で経済的なことから、幅広く活用されています。

■キャットフードの種類と特徴

種類	特徴	長所・短所
ドライタイプ	水分10%以下の固形タイプで、成分は穀物が中心。	保存性があり値段も手頃で経済的。
ウェットタイプ	水分75%前後、肉をペーストにしたものや魚をフレークにしたものが主流。	嗜好性は最高ですが、開封後は長期での保存はできません。
スナック類	ご褒美やおやつ時に与えることを目的としたフードです。	主食に代わるものではないので、あくまで間食用として与えてください。ビタミンやカルシウムなどの栄養補助を目的としたものも市販されています。開封後は、水分の多いものは冷蔵庫で保存した方が良いでしょう。
離乳食	離乳期の子猫用のフードです。乳製品が多く使われ、その他粉末穀物・カルシウム・動物性タンパク質など成長期に必要な栄養成分が調整されています。	少ない量で高カロリーを得ることができます。普段よりも栄養が必要な出産前後の母猫に与えるのも良いでしょう。
子猫用フード	ドライ・ウェットなどさまざまなタイプのものがあり、栄養成分が成長期に合わせてあります。	
中高齢猫用フード	年をとって運動不足になった中高齢猫の体に合わせ、消化吸収が良く、低脂肪・低カロリーに作られています。体内で老化が始まる7歳を過ぎたころから与えると良いでしょう。	
肥満用フード	肥満になってしまった猫のカロリーコントロール用に与えるフードです。	

与える時の注意

- ①キャットフードの特徴をよく知しましょう。
- ②猫が好むフードばかり与えると、栄養が偏ってしまいます。
- ③必ず新鮮な水を与えましょう。

フード購入時のチェックポイント

- ①賞味期限・製造年月日をチェック。
必ず賞味期限・製造年月日をチェックしましょう。
- ②ラベルのチェック
ラベルや包装にきちんと成分の表示があるものを選んでください。粗タンパク質・粗脂肪・粗灰分及び水分が何%含まれているかが表示されています。

生後6週まで	授乳期、母乳または猫用ミルク
6~10週	離乳食
11~20週	1日3回、子猫用のキャットフードをなるべくドライのまま与えてください。
21~50週	1日2回、子猫用のキャットフードを決められた時間に与えてください。

※このタイムテーブルは、あくまでも目安としてください。

子猫の食事(1歳未満)

子猫は、生後1年で成猫となります。そのために成猫よりも栄養分が多く必要です。栄養不足になると、しっかりとした骨格・筋肉の形成が行えなくなるので、子猫の食事には子猫専用のキャットフードを与えることをおすすめします。

成猫の食事(1歳以上)

成猫には、一般的なキャットフードを与えてください。味付けの濃いものは与えないようにしてください。一度味の濃いものを覚えると、ほかのものは食べなくなってしまいます。また、肥満猫については、カロリーが少なく食物繊維を多く含んだキャットフードを与えてください。尿結石などの泌尿器系の病気が気になる時は、成分表のマグネシウムの含有量をチェックしてください。
(目安としては、マグネシウム含有率0.1%以下)



※画像はイメージです。



愛猫の食事

Q. 猫専用の食事管理って必要なの？

YES!

A. 猫には猫の、必要な栄養素があるのです。



- 猫の体に必要な主栄養素
- 猫に食べさせてはいけないもの
- 子猫のタイムテーブル
- 子猫の食事
- 成猫の食事

猫の体に必要な主栄養素

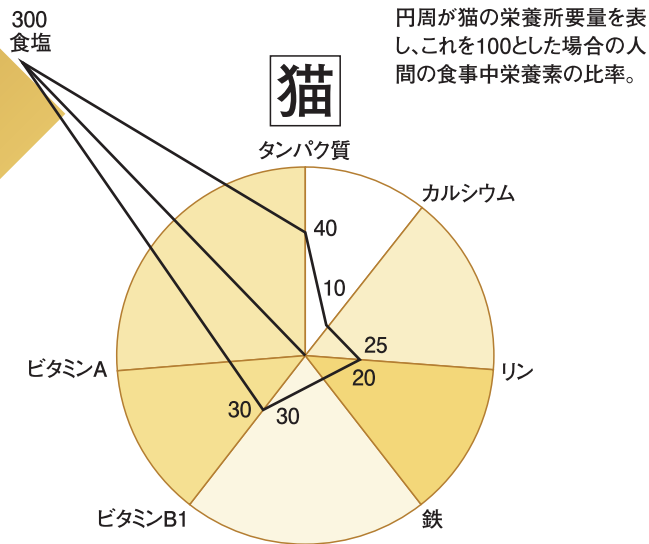
タンパク質	体の組織や血液をつくる元になったり、各機能を安定的に動かす役割を担います。
脂肪	エネルギー源として高カロリーというだけでなく、補酵素や生体の微量成分の材料として重要な働きをしています。
リン	カルシウムとともにバランス良く与える必要があります。
カルシウム	丈夫な歯や骨格をつくる大切な栄養素で、発育の盛んな幼猫や子猫、妊娠中の猫には特に欠かせない成分です。
鉄分	赤血球を体内でつくるために必要です。鉄が欠乏すると貧血を起こし、虚弱や疲労感などの症状が現れます。
ビタミンA	目を保護する働きを始め、体内でさまざまな機能に関わってきます。
ビタミンB1	体調維持に必要で猫は特にビタミンB1の要求量が高めです。体内に蓄積されないため、毎日与える必要があります。
ビタミンC	皮膚・毛・歯茎の健康に欠かせないものですが、猫は体内でビタミンCを合成できるので、あえて与える必要はありません。
ビタミンE	骨格と筋肉の成長を助け、体内の血行を良くします。

豆知識

猫と人間の年齢比

猫の年齢	人間の年齢	猫の年齢	人間の年齢
1カ月	1歳	4年	32歳
2カ月	3歳	5年	36歳
3カ月	5歳	6年	40歳
6カ月	9歳	7年	44歳
12カ月	17歳	8年	48歳
18カ月	20歳	9年	52歳
2年	23歳	10年	56歳
3年1カ月	28歳	15年	76歳

猫と人間の1日に必要な栄養素



エネルギー(カロリー)必要量を満たすように食事をとった場合の成人男子と成猫の栄養所要量の比較。

■栄養素の欠乏症

栄養素が不足するといろいろな欠乏症が発生して、猫の健康を損なうことがあります。

タンパク質	成長不良・乳汁不足・病気への抵抗力低下など
脂肪	エネルギー源不足によりやせる・毛ツヤが悪くなる・皮膚炎など
ビタミンA	眼病・発育不良・抵抗力低下など
ビタミンD	クル病・骨軟症など
ビタミンE	繁殖障害・黄色脂肪症など
チアミン(ビタミンB1)	体重減少・けいれん・反射異常など
リボフラビン(ビタミンB2)	体温低下・心機能不全・食欲減退など
ナイアシン	下痢・貧血
ビタミンB6	貧血・神経障害など
ビタミンB12	発育不良・貧血など
カルシウム	クル病・骨軟症など
リン	クル病・骨軟症など
鉄	貧血・成長不振
銅	貧血・成長不振

猫に食べさせてはいけないもの

■鶏の骨

猫の口に入った鶏の骨は、鋭く尖った形に裂けてしまい、口の中や喉を傷付ける恐れがあります。

■イカ・タコ・貝

生のままでは消化不良で下痢などを起こすことがあります。

■ねぎ類

玉ねぎは猫の血中へヘモグロビンを壊し、赤血球を溶かすので貧血を起こしてしまいます。

■牛乳

猫によってはお腹を壊してしまいます。

■アワビ

アワビに含まれるピロフェオホルパイドaを摂取することにより、光線過敏症という病気の原因になり、皮膚炎などを起こしやすくなります。

■アボカド

アボカドに含まれるペルシンという成分を摂取することにより、下痢や軟便・嘔吐などの症状を起こすことがあります。

■チョコレート

カカオに含まれるテオブロミンを摂取することにより、心臓や中枢神経系を刺激し下痢や吐き気、血圧上昇、不整脈、痙攣などの症状を引き起こします。

■人間用に味付けされたもの

人間が食べるものには塩分や糖がたくさん入っているため、猫にとっては過剰摂取になってしまい体調を崩しやすくなります。

■その他

新鮮な刺し身でない限り、生ものにはできるだけ火を通してから与えましょう。

同じ食材を使っている、人間の食事と猫の食事は、根本的に全く異なるものと考えましょう。

